

広報広聴常任委員会

令和8年8月10日（月曜日）

開会 午前10時00分

閉会 午前11時02分

1. 森町公式LINEの運営状況について
2. その他

○出席委員（8名）

2番 河野文彦君	3番 高橋邦雄君
5番 山田誠君	6番 野口周治君
7番 斉藤優香君	8番 千葉圭一君
10番 加藤進君	12番 東隆一君

○欠席委員（4名）

1番 伊藤昇君	4番 河野淳君
9番 佐々木修君	13番 松田兼宗君

○職務のため出席した者の職氏名

事務局 長 関孝憲君
議事係 長 兼 長谷川拓哉君
庶務係 長

開会 午前10時00分

◎開会・開議の宣告

○委員長（斉藤優香君） ただいまの出席委員数は8名です。定足数に達しましたので、広報広聴常任委員会を開会します。

ただいまから本日の会議を開きます。

本日の会議日程は、お手元に配付のとおりでございます。

◎森町公式LINEの運営状況について

○委員長（斉藤優香君） 初めに、企画振興課関係の調査事項を行います。

森町公式LINEの運営状況についてを議題とします。

岩井企画振興課長より資料説明を求めます。

○企画振興課長（岩井一桐君） 企画振興課です。どうぞよろしくお願いいたします。早速ですが、お手元にお配りの資料、また画面も投影しておりますので、森町公式LINEの運営状況についてということでご説明させていただきます。

それでは、まず1枚目をお開きください。現在のラインのアカウント状況についてということで、当町では平成29年度にラインのアカウントを取得しておりまして、これまで選挙ですとか災害などの情報を発信してきたところでございますが、その間これら以外ではあまり活用されていないのが現状でありました。そういった状況でもありましたので、ラインを含めて各SNSの所管を今年1月から企画振興課に一元化いたしまして、特に行政サービスや生活関連情報を必要とする利用者が多いと言われておりますラインを中心に情報発信に現在努めているところでございます。その効果もあって令和8年6月現在のフォロワー数は3,564名となっております。所管を一元化してからフォロワー数が216人増加しております。参考までにエックスですとかインスタグラムなどのフォロワー数も記載しておりますが、それぞれの特性ですとか利用者層を勘案しながら配信する内容について整理して情報を発信した結果、全てのSNSでフォロワー数が増加しておりまして、少しずつではありますが、森町公式アカウントに興味を示している方が増えてきている状況と分析しております。

続きまして、次のページのライン友達推移についてでございます。先ほどはフォロワー数という言葉を使いましたが、こちらの資料では友達数としております。令和8年6月現在で3,564名となっております。令和5年1月に比べますと1,016人増加しており非常に喜ばしいところでございますが、ここで注目すべきは2段目の有効な友達数が令和5年1月に比べて479人増加の2,054名にとどまっているところでございます。この有効な友達数とは、これまで一度でも森町を登録したことのある数を指す友達数から何らかの理由、例えば配信される情報にメリットを感じないですとか、そういった理由で町から発信する情報を自ら遮断する方のブロック数と登録して間もないですとか、使用頻度が少ないなどの理由で属性不明として対象外となった人数を差し引いた人数でありまして、この2,054

名に対して実際に情報を今現在配信している状況であります。このため、いかにブロックされない情報発信の在り方がこれからの課題であると認識しているところでございます。

続きまして、次のページでございます。ライン運用方針と配信状況についてということですが、まずは運用方針ということで、どのような情報を配信するかどうかの基準を定めております。基本的には広報紙やホームページ、防災無線で周知する、またはこれから周知する予定の内容についていろいろ取捨選択しながら配信することとしております。ここに例を挙げておりますけれども、ラインに関してはイベントから行政情報までの5つのカテゴリー分けをSNS運用マニュアルで明文化しております。具体的には、イベントにつきましては森町が主催としているもの、また行政情報であれば住民の利益に関する制度などの情報を適切なタイミングを見計らいながら配信することを心がけております。

続いて、今年度の配信状況でありますけれども、毎月定期で配信しているものとして、広報ですとか保健事業日程を毎月定期的に配信しているところであります。また、その他配信内容として4月から7月までの実績を掲載しておりまして、投稿した内容についてはこちらに記載の各種イベント等々について発信しているところであります。

この件数を見て先ほど千葉委員もおっしゃってございましたけれども、数が少ないのではないかなというようにお声があるのも聞こえてきておりますけれども、そこで懸念されますのが先ほどもお伝えしました利用者からのブロック問題であります。ラインの特性として、利用者へ直接通知、いわゆるプッシュ型通知のため、あれもこれもと配信をやみくもに増やすことで自分に関係のない情報を必要としない利用者からブロックされる傾向にあります。参考として具体例を挙げますと、令和7年12月に発生しました青森県東方沖地震の際には、情報を配信した結果、新規に登録された方が39名おりましたのに対して、その一方でうるさく感じられたのか自ら情報の配信を遮断した方が46件と新規登録を上回るなど、先ほども申し上げましたとおり、いかにブロックされない情報発信の在り方としての適切な量を試行錯誤しながら今現在模索している状況でございます。

続きまして、発災時等におけるライン等の運用ということで、結論から申し上げますとラインを含む全てのSNSは決して万能ではないということを最初にお伝えさせていただきます。特に地震や津波といったいつ、どこで発生するか予測のできない災害に対して平日の日中であれば我々も通常勤務しておりますので、関係課と連携しながら迅速な情報提供を行うことはできますが、休日ですとか夜間の場合は参集するまでに一定程度の時間を要しますし、職員が役場に到達してから情報収集ですとか発信する内容の精査にどうしても時間がかかってしまう状況にあります。そういった状況を鑑みますと、町公式ホームページは防災交通課が直接記事掲載できる権限を付与しておりますし、防災行政無線も同時並行で放送する体制を整えておりますので、発災時の情報発信といたしましては、そちらを第一義的にメインと考えているところであります。一方で、ラインを含みます全

てのSNSは町公式ホームページに掲載された後での配信となりますので、どうしてもタイムラグが生じてしまうことから、補完的な役割と位置づけておりますことをご承知おきいただければと思います。なお、町公式ホームページでは避難所の開設、閉鎖については都度情報提供しておりますが、ラインではこれまでもお伝えしておりますブロック問題がありますので、基本的にはこちらの配信例の左側にありますように少ない配信数の情報発信にとどめまして、こちらの町公式ホームページへいざなう方法を採用しているところがあります。

続きまして、ラインの機能拡充についてということでご説明いたします。当町では今現在ラインが無償提供しておりますプラン、こちらのプランを利用しております、防災情報ですとかイベント情報といった登録者の関心が高いと思われる6つのメニューで運用しております。一方で、資料右側にありますように函館市などは有償プランを利用しております、公共施設の予約のほかに、ごみ収集日ですとかヒグマの目撃情報などの通報機能、各種手続申請などがラインで行えるような機能を拡充しているところでもあります。当町といたしましても町民の利便性向上につながる内容でありますので、企画振興課のみならず関係する部署と一緒に函館市を視察したりですとか、講師を招いて勉強会を開催しながら町民と職員にとって、両者にとってのメリット、デメリットについて分析しながら必要について今現在検討しているところでもあります。

最後になりますが、皆様の中でまずは森町公式ラインをフォローされていない方につきましては、この機会にぜひとも友達追加していただくことをお願いいたしまして簡単ですが、資料の説明とさせていただきます。

以上でございます。

○委員長（斉藤優香君） ただいまの説明について質疑ある方がいらっしゃいますか。

○委員（野口周治君） 言葉について教えてください。先ほどの有償プランの有償の意味は、誰が、どのくらいのお金を出す話なのですか。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

有償プランにつきましては、森町が運営する業者に対して支払うものでありまして、今現在ですと月23万程度、年間300万ぐらいの規模でとなっておりますが、来年度から値上げされることがもう既に案内としていただいているところでもあります。

以上です。

○委員（東 隆一君） 有償プランのメニューというのは、これは実際には今無償のプラン、現行があるのですけれども、有償というのは町がこれ有償にすることなのですか。個人がもしもこれをもっと詳しく見たいってなると、これは要するにお金がかかるということの意味なのですか。ってなれば、この無償のプランの中にライン、要は登録すると無償のプラン今見れるわけですね。その中にもっと詳しく調べたいのだからということで有償ということになると幾らかかるのかということが要はこの無償のところに書いていてもらえれば有償で見たい人はという話ではなくて、有償プランというのはどういう、そこ

のところをちょっと。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

無償プランについては、町は今現在一切お金を払っておりませんで、有償プランになりますと町だけが料金を負担して内容を充実させたものを町民の方に無償で提供するというような有償プランになります。今現在も町民の方ですとか友達登録されている方は、通信料はかかりますけれども、無償でご利用いただいておりますので、有償プランにアップグレードとしても利用者の方の負担は通信料は増えるかもしれませんが、その町で払っている分の応分の負担をさせるというようなことは考えてございません。あくまでも利用した分だけお支払いしていただくというようなイメージです。

以上です。

○委員（東 隆一君） 有償プランというのは、要はもっと詳しくやるために町がもしももっと詳しくその有償プランに入って負担して、それで要するに情報を抜いて皆さんに提供するということの意味ですね、今言っているのは。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

今町内会館の予約であれば役場に来て手続きをしなければならないものが例えばそういった声が多いようであれば、このラインの中に会館登録機能などを入れて、そこから町民の方が会館の利用予約をできるとか、そういったメニューを考えておりまして、それが必要であればそういったほうにシフトしていくようなイメージであります。

以上です。

○委員（東 隆一君） では、そういうことは要は今これは有償プランというのは利用していないけれども、町民のほうからそういう意見が多ければ逐次その有償プランをそっちのほうから提供してもらって、無償プランの中に入れていたというよりも無償プランを充実するということの意味でよろしいのですか。それから、もしもそういうのがあれば絶対にそこの中で予算を組みながら有償プランをさっき300万か、そのくらいって言っていましたか、そういう部分が増えていくという話なのですか。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

考え方といたしましては東委員がおっしゃられた後者のほうとなりますが、今現在無償プランではこのメニューしか適用できておりませんが、さらに町民の方がもっともっと情報を欲しいのだということであれば、町が有償プランに移行して機能を充実させて情報提供を行っていくというようなイメージであります。

以上です。

○委員（東 隆一君） 無償プランで今始まっているのですけれども、これはどこかのまちのを参考にした話なののでしょうか。私もいろいろホームページのほうから立ち上げていくのですけれども、なかなかそっちにたどり着かないときもあるときもあるのです。ちょっと何か難しいのかななんて思って、これは実際に町民の方から要するにそういう意見とかなんとかというのはどうなののでしょうか。こういうネットを使っている方が要するに数

が少ないですから、そういう意見は直接は来ないのだと思いますけれども、ちょっと何かそっちに行くまでに時間がかかるような気がしないでもないのですよね、私がやっていて。そのところはどうか。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

まず、こちらの現在のメニューにつきましてはオーソドックスなものといえますか、そういったものを採用しておりまして、どうしてもうちの無償プランの性質上といえますか、こちらで例えば防災情報をクリックしてもストレートに情報が出てくるわけではなくて、一旦ホームページに飛んで、そこからホームページの情報を見るというようなスタイルになっております。そういったのがやっぱりワンクッション1つ手間が増えますので、煩わしさは感じるかなと思いますけれども、その一方で例えばイベント情報ですとかは新たに記事として出して直接ホームページに遷移するような配信なども心がけながら、何とか今の既存のメニューの無償メニューをうまく活用しながら今運用している状況にあります。

以上です。

○委員（河野文彦君） 今話題になった無償、有償のことからちょっとお聞きしたいのですが、今の無償プランで何が不自由して、何が不足して有償ということを経後考えるということなのだろうけれども、現状この無償でたくさんではない。なぜこの有償プランが話題に上がるのかも理解できないぐらい必要ないと思う。担当課の仕事は、お金使うことが仕事ではないから。では、この無償プランが機能としてもう不足しているというぐらい活用してからにしたほうがいいよ。お金使うことが仕事ではないのだから。まずは、今あるこの無償プランを使いこなしてからそういう話したほうがいいのではないかな。ではないと、何か本当にお金使って予算執行することが仕事みたい聞こえてしまう。だから、そこはまず来年度以降の話でしょう、有償どうしようかというのは。今一つの例として挙げたのかもしれないけれども、まずはもっと無償プランが充実する。いろんな方が利用してくれて、いやいや、もっと機能拡大してほしいという声もうわんわん担当課に届くぐらいしてから考えよう、有償は。年間300万って言ったでしょう。今森町の財政分かっているでしょう、状況。この違いで300万出すなんてあり得ないよ、今の状況だとして思うので、有償プランの話はまた別ですけれども、今の無償プランをもっと充実させましょう、させていこうって考えてほしいのですけれども、いかがですか、まず。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

確かに河野委員おっしゃるように不要、有償プランまで要らないのではないかなというような声もありますし、ぜひともこういう有償プランというような声もあるのは事実です。そういった中で当課のスタンスとしては、今別に有償プランありきで決して進んでいるわけではありませんが、有償プラン入れることによって町民と職員のメリット、デメリットを整理しながら、例えばこの有償プランを入れることによって職員の労力が減るですとか、あと事務の煩雑さが解消されるですとか、そういったことを見極めながら、果たしてそれが本当に300万、400万、500万かけてまで必要なものかどうかというような、今現在分析を

しながら検討している最中であるというような状況であります。

以上です。

○委員（河野文彦君）そこは本当に慎重にやっていってください。例えばさっきの話も聞いていると煩雑さ、ボタンを1つ押すのが増えるとか何かそんな話に聞こえたのだけれども、そこまで考えなくていいと思うよ。十分だよ、今ので。そんなリンクがどうこうでボタンが1回増えるとかって、そんなことのために何百万も使う必要ないと俺は思う。エンターテインメントではないのだから、これ。遊びではないのだよ。僕さっきから聞いていて、担当課としてはやっぱりそのフォロワー数ではないけれども、友達数が増えてほしいというの、これは分かる。だけれども、ブロックした理由がもう情報がしょっちゅう入ってきてうるさいからブロックとか、そんなことを言う人なんてほっておいていい。情報というのは、求める人間が手伸ばしてつかまないと駄目なものだから。何でもかんでもこっちが、全ての人が何の情報欲しいか分からないけれども、ラインがうるさいからブロックしたとか、そんなの気にしていたらこんなのやっていられないよ。だから、僕は増えたほうがいいけれども、友達数は減ったことに対してなんて、一回見て要らないと思ったらその人要らないのだから、それ自分の判断。でも、少なくともアイテムとして情報をこれだけ提供しているよというものだけは維持してほしい。それを取捨選択するのは町民だから。そこまで心配していたら切りないよって思うから、堂々とたくさん情報を発信してほしい。

僕さっきから話聞いていてこれかな、見ていたの。違うの見ていたらごめんね。さっきから子育て情報だとか医療情報も発信してとかって言っているけれども、例えば今年度に入って桜まつりと夏のまつりinもりと広報以外に何か発信している、これで。

（「保健情報とか」の声あり）

○委員（河野文彦君）では、違うのを見ているの、これ。

○委員長（斉藤優香君）ライン登録していないのではないですか。

○委員（河野文彦君）いや、しているよ。

（何事か言う者あり）

○委員（河野文彦君）そうなの。ごめんなさい、やり方間違っていたらごめんね。だから、違うのを見ていたらごめんねって最初に確認したのだけれども。

○委員長（斉藤優香君）ほかの質問これ以外である方、もしライン、この先進んでいくのだったら皆さん登録はされていますか、森町の。されていない方いらっしゃいますか。そうすると、見ていないので、先に皆さんで一度登録していただいて、また話を再開するというのはどうでしょうか。

（「異議なし」の声多数あり）

○委員長（斉藤優香君）それでは、登録されていない方いらっしゃいますか。

（何事か言う者あり）

○委員長（斉藤優香君）山田さん、あとは皆さん登録されていますか。

(何事か言う者あり)

○委員（河野文彦君） ちょっと休憩なら休憩して……

○委員長（斉藤優香君） そうですね。暫時休憩で、その中で今ライン登録を先にやりま
す。すみません。

休憩 午前10時24分

再開 午前10時29分

○委員長（佐々木 修君） 休憩を解きまして会議を再開いたします。

○委員（河野文彦君） すみません、設定確認しました。ちゃんといろんな情報が発信さ
れていて大変よろしいと思います。失礼しました。

それで、さっきの登録数の話で、僕たち一般のライン使っていると例えばグループライ
ンとかだと既読何人とかって分かるではないですか。この森町の今の無償のプランで例え
ばこういう情報発信しました。これに対して既読した方が何名ですとかというのはカウ
ントできるものなのですか。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

当課で所管しております管理者アカウントのほうで既読何件というような件数確認はで
きている状況であります。

以上です。

○委員（河野文彦君） いろんな情報を発信している中で少ないからこの情報はしないと
か、そういうことはしないで、もう何でもばんばん流してもいいと思います。僕はそう思
う。本当に聞きたくない人だったらブロックすればいいだろうし、音消すとかでもでき
るでしょう、こういうのって。ピコピコ音が煩わしい人は音を消して画面でチェックするだ
けをしてもらえばいいだろうし、だから今までどおりたくさん情報発信して、ブロック数
なんて気にせずやってくれたらいいと思います。僕はそう思うのですけれども、どうで
すか。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

当然我々も友達数を増やすことが決して目的ではありませんで、たくさんの方に情報を
見てもらいたいというような思いで当課にラインを移管した理由でもあります。そういっ
た状況ではありますけれども、やはり今の現在の無償プランですと月に配信できる件数と
いうのが決まっておりますので、今現在だと月15回の登録者数であれば15回の情報発信は
できますので、少ない月ですと2回しか行っておりませんので、もうちょっと情報発信の
在り方については検討する余地はあるのかなと思っております。そういった配信する中で
またブロック数の推移だとかも分析しながら、その辺の適正量なども見極めていければな
と考えております。

以上です。

○委員（高橋邦雄君）　そもそもこのラインアカウントというのは、行政のイベント、緊急時、住民の暮らしに役立つ情報ということで成り立っていると思います。そこで、この資料の中でライン以外のアカウントを対象とした場合、ラインがかなりフォロワー数は多いと、有効に使われるということなのですけれども、先ほどブロックの話も出ていますけれども、そのブロックをされる方がただ発信の音が、それがあまりよろしくないということでブロックされるケースもあるとは思っているのですけれども、その中でやっぱり情報管理の中で個人の情報がどうしても友達になると情報が開示されるおそれがあるので、その部分はどうかということ、あくまでもこれ年代数でいえば20代から50代、パーセンテージ多いですね。だから、その部分がどのように企画振興課としては認識しているのか。ブロックは別に先ほども河野委員も話したように、さほど気にする部分ではないと私は実は思っているのです。これを使用する人は目的を持って何を知りたいのかということでここをフォローして情報を自分で町の情報はどうかのだろうということを確認したいので、あくまでも今のやり方としては対応しながら、もっとフォロワー数が増えてと言うのですけれども、町が発信する情報の中で公的なものですから、あくまでも利用される、知りたい方にとって最善の形が取れていれば、僕はそこを維持していながら少しずつ改善すればいいと思っているのですけれども、その部分どうですか。

○企画振興課長（岩井一桐君）　お答えいたします。

まさに我々も今年の1月、2月から運用を開始しておりまして、移管して運用を開始している中でいろいろ担当、すごくやる気がある中で試行錯誤しながら今現在どうすればより多くの人に情報が伝わるのかということを常に考えながら現在進めている状況であります。そういった中で、当然それに伴って友達数も増えてくれれば非常にありがたいのはありますけれども、あまりそこには固執せずにといいですか、いかに欲しい方に必要な情報をどうやって届けるかということに今主眼を置きながらこれからも取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○委員（高橋邦雄君）　1点だけです。先ほどのフォロワー数なのですけれども、友達も含めてこの方たちのどのように、例えばラインを使用してメリット、デメリットという、そういうのなかなか難しいと思うのですけれども、そういうのも参考にしながら、もし改善してより利用しやすく情報を提示できるような形を考えるのであれば、その聞き取りではないのですけれども、その認識って一番底辺で大事だと思うのです。その部分はどうか考えていますか。

○企画振興課長（岩井一桐君）　お答えいたします。

我々もいろいろ分析、検討しながらPDCA回していく中でラインの中でもラインに関するアンケートというのをやっておりまして、そういった登録者からの声なども反映させながらよりよいものにといいような思いでPDCA回して今現在取り組んでいる、現在進行形であります。

以上でございます。

○委員（野口周治君） 今の一連の議論に私も参加をしたいのですが、こういうのを考えるときって何のためにやるのかというのがとても大事で、それは例えばいわゆる回覧板のような町内お知らせのためなのか、それとも検索性を高めてたどってもらえるようにするのが考え方なのか、町内で考えてそういうことはあるのですけれども、もう一つは町外の方が町のことを認識してくださる入り口にもなり得る。例えばそれが大きく言えばふるさと納税みたいなファンになってくれる人をつくれる、そういう入り口になる可能性もある。そういうツールだというふうにまず捉えておくのがいいのではないかと私は思っています。その役割をただ全部やろうとしても相手によって求められるものは違いますし、その人、相手の方の属性によってももちろん変えなければいけないのですが、その中で今は何を狙うかというのををはっきりさせて取り組むということが必要ではないかと思うのです。さっき分析、検討という言葉が出てきたので、私はその言葉から恐らくそういう自分たちはこれを使って何をしたいかということを整理しようとしているのではないかと思ったのですが、答弁があまりそういう感じではないので、ちょっと心配になって今どういうふうに考えているのかをお尋ねしたい、これが1つです。

それから、例えばさっき件数、登録とブロックの関係が出ましたけれども、単純に情報の質を横に置いて考えると、発信件数が増えるところまでは、なら見ようかなという人が増えていくのだと思うのですけれども、ある限度を超えると、それは人によって違いますから、統計的に傾向値として物すごく増えるとやっぱりうるさいねって消される割合が高まってくるという、その中のベストミックスというのかな、ここまでならいいだろうというそのゾーン、ピンポイントではなくて恐らくゾーンだと思うのですけれども、それを探す作業ではないかというのが1つ。

それから、もう一つは件数だけではなくて発信の魅力度、ないしは分かりやすさということと一緒に考えていかないと、件数だけで物を考えると間違っているのではないかと思うのですけれども、そういうことはどうか。例えばここに2つのまちの事例が載っていましたが、八雲町もライン一生懸命たしか使っていたと思うのです。あれ見せてもらって、使いやすそうだなと私は思ったのです。そのやり方によっては強い道具にもなるし、やり方を間違えると仕事が増えるばかりで全然役に立たないことにもなる。どこを狙って、どう進めるのかということ具体的を検討して考えて、それを示していただくことが必要ではないか。そうしないと、ただ多いの、少ないのということだけ言ってもしょうがないよねという気がしてきたのだけれども、どうでしょうねと。私は町内のことももちろん大事ですが、町のプレゼンツ、これ今はSNSの世界ですから、幾らいいことをしていても見てもらえなければ意味がないというところがあるではないですか、世の中って。そういう意味ではSNSの中、世界に森町がちゃんといるということ、それとできるだけ魅力的な姿でいるということを示すことは決して無駄ではない。広い意味で、では森町行ってみようかなとか、そういう町だったら住んでみようかなとか、寄附しようかなという人だって出

るかもしれない。そんな簡単ではないですよ。でも、物の考え方としてはそういう大きな広がりの中で自分たちはその全部は一遍にできないから、どこをやっているのか、どこを今取りあえず目指そうとしているのか、その先のバリエーションはどうかという、その仮説を全体整理して示してもらう必要があるのではないかと。今全部言えというのではないです。そういう提示が必要ではないかしら。ここにはある切り口の手元にあるデータ、恐らく簡単に引っ張れるものを並べただけけれども、そういうビジョンを説明してもらうことが本当はこういうときにいいのではないかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

まず、1点目の何のためにといいますか、誰に向けてという部分なのですけれども、当然これは現在森町にお住まいの方はしかり、あと町外に住まわれている森町出身者の方、また何らかの関わりを持ったことのある森町に興味のある方を対象に発信しております。町民については当然リアルタイムといいますか、適切なタイミングでイベント情報だとかお知らせしながら、町外にいる方については例えば委員おっしゃられているようにふるさと納税ですとか、もっと広く考えると関係人口の増加ということを念頭に置きながら情報発信に今取り組んでいるところであります。

2点目の発信の魅力度っていいですか、そういった部分についてはまだまだ改善の余地はあるといいますか、今まだ試行錯誤中でありまして、いろんな先行事例などを見ながらよりブラッシュアップしてSNS映えといいますか、そういったものも頭に入れながら情報発信していく方法についてもまだまだ改善の余地はあるのかなと考えております。

以上です。

○委員（千葉圭一君） では、まず1つ目に1ページ目のラインアカウント状況についてお聞きします。

令和8年、今年の2月に3,348人から216人増えたわけですね。そうすると、216人が増えた2月から6月の間にどのような情報を発信することでこの216人は増えたのか、まずそれ1点お聞きしたいのですけれども。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

216名増えた理由といたしましては、まずは広報紙で友達追加しましょうというような記事を出したことが1つと、あと職員の口コミでまだ職員で登録されていない方を登録させてもらったりですとか、そういったことをしながら増やしている状況にあります。

以上です。

○委員（千葉圭一君） ということは、やはりフォロワー数は増やす、先ほど目的ではないという話はして、確かに目的ではないかもしれないけれども、最終的に見ていただかないと、そのために発信しているわけですから、フォロワー数はやっぱり広報紙でもっと毎月の広報紙にどんと載せるとか何か目的を持ってどんどんやっていくべきではないですか。この広報紙と職員で216人も載ったのなら、あと続けていけば相当な数になりますよねと思うのですけれども、その辺はいかがですか。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

企画振興課にラインが移管されてから、この間広報で2か月連続でちょっと大きめの記事を書いたりですとか、そういったことには取り組んでいる状況です。当然我々もそれで終わりではなくて、定期的にラインの友達追加に関する記事については紙面の都合はありますけれども、載せていきながら、フォロワー数を増やすことが目的ではないとはいえ、心の充足度といいますか、やったなという達成感みたいなものにはつながると思いますので、そういったことも取り組んでいきたいと考えております。

以上です。

○委員（千葉圭一君） ラインについてはよくなっているということは先ほどもお話ししましたけれども、当然欲しい情報はいろんな人によって違うわけだから、多岐にはわたります。ただ、多岐にはわたるけれども、このラインを見る方々の、例えば20代から30代の女性の方がよく見られる。それが例えば子育てに関しての情報が欲しくて見る。あとは、お年寄りにしてみたら、お年寄りだけではなくて、そのご家族だとかっていったら医療関係を何かあったときに見ようとする。だから、そういう毎月、うまく言えないですけども、今回はここを特化してやってみる。どれだけ数が増えた。次は、これを特化してちょっと情報を発信してみるとかというふうに、こういう内容別に発信をして、より効果的にやっていったほうがいいのではないかなというのは、防災情報って意外と何か起きたときにみんな見るのだけれども、ふだんなかなか見るようなものではないと私は思うのですけれども、ふだんやっぱり見るものを最優先に特化してやっていったほうが使っているフォロワーの皆さん方からしてみたら、よりよくなったというのはもっともっと声が上がるのではないかなというふうに思うのですけれども、いかがでしょうか。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

資料の3ページにもありますけれども、町では毎月広報ですとか保健事業については必ず日にちを決めて配信している状況であります。その他の内容につきましては、例えばイベント情報などを都度タイミング見計らいながら発信している状況でありますけれども、ただいま千葉委員からおっしゃられたような何かに特化するというようなことは、これまでやったことございませんので、参考にさせていただきながら、例えば9月であれば防災月間とか、そういったその月の状況等に見合わせながら何かそういったものにも特化していくことも検討していきたいと考えております。

以上です。

○委員（東 隆一君） 発信の状況なのですけれども、先ほど月に15回が限度で、これどうなのですか。例えば防災無線なんかが、それも1件なのか。どこかで地震ありましたよ、それ1件ですと。熊の情報がありましたよ、それ1件、これ2件目ですよ。そういったカウントの仕方なのか。例えば今月10件しかありませんと。来月それが5件繰越して20件になるのかと。年間でこれ要するに月15回ですから、150件、下手すれば200件ですか、そのくらいの発信ができるものなのか、その都度、その月々で15件なければそれはそれで

終わりですよ。新たな月は新たに15回ですよという部分で、その発信の部分で、どこの部分で、その一つの項目で例えば防災無線、さっき言ったみたいに、そういうものなのか、そのところちょっと詳しく。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

まず、防災無線の件ですけれども、防災無線で流したものをラインでも配信すると、それはラインの配信回数1件とカウントされてしまいますので、例えば月15件であればそこで1件使ってしまうと。その月は、もう残り14件しか発信できませんよというような制約がございます。今現在、今の登録者数であれば月15回程度情報発信することは可能ですけれども、それが10回に減ったからといって5回分繰り越すことはできませんで、あくまでも月15回がそのまま毎月継続されていくというような、繰越しはございません。それに加えて、その有効な友達数が2,000人ちょっとで配信できる件数が3万件ですので、例えばこの有効な友達が3,000人に増えると配信できる件数は10件に減ってしまいますので、その辺数に応じて変動するということをご承知おきいただければと思います。

以上です。

○委員（野口周治君） 今の最後の答弁のところの理解の仕方について尋ねます。

SNSの世界って、これビジネスモデルとしては使う人が増えるほど、そのシステムを提供している側からすると魅力が増してくるので、サービスが手厚くなるものだと思っていたのですが、今のケースはそうではなくて枠は枠で決まっているのだからねということなのですねが1つ。そういう意味では、本来の彼らの仕事の仕方とちょっと違うことがここで起きているのはなぜだろうと思ったので、もし何か答えがあれば教えてほしいのです。

それが1つと、ちょっとそこを超えた話になりますけれども、登録者数が増えるということは、魅力が高くて町の出す情報に反応してくれる可能性のある人が増えるということなので、基本的にはとてもいいことだろうと。例えば全国の自治体でラインでも何でもいいのですけれども、自治体で運用している中の上位のほうにあると当然見てくれる人も増えるはずだし、それであればというふうにプラスの反応がいっぱい出てくるというおまけがついてくるということで、総件数に対して登録者数が増えると発信件数が減っていくよということだけを言うと、その上限が来るからあんまり増やすと使いにくいよねってなりそうな気もするのだけれども、逆に言えばそこまでいつたら、それだったらお金をかけてでももっと情報を発信したほうが得だよねという話もあり得る。これ広告宣伝の話とすごく似てくるので、効果測定とかとても難しくなるのですけれども、そういう発想が要るのではないかなと思いますながら今聞いていたのですが、その辺どうですか。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

今現在無償版を使用しているということで、どうしてもそういった制限がかかってしまうのが現状でございます。数が増えれば増えるほど発信量が減っていくというような現在の状況であります。これを有償版にすることによって発信する件数も増えますし、魅力がある内容であればもっともっと見ていただける可能性は非常に秘めているツールでは

あると考えております。ただ、その部分を導入するかどうかにつきましては、そういった今言ったような職員ですとか町民のメリット、デメリット、当然職員側も作業は増えますし、なおかつ作業増えてこれで残業になると、またさらにお金も発生するような事態にもなりますので、その費用対効果なども考慮しながらあるべき姿、進むべき姿について分析しながら来年度の予算要求に向けてどうしていこうかというような、今検討段階であります。

以上です。

○委員（野口周治君） 分かりました。私はやれ、やれって言っているのではないです。モデルの理解の仕方を尋ねているので、結構です。

○委員（河野文彦君） 今日の委員会で私もいろいろ頭の中がアップデートできたので、つい先ほど。月15回しか使えないということは、2日に1回しか送れないということですよ。無償だと、現状。すみません、ついさっきと言っていることごとろって変わって申し訳ないのだけれども、それであつたらやっぱり有償というのも物すごく有効な手はずかなって思ったので、ぜひ伝えたくて、それを。

僕、あとこのラインの発信する情報をもっと増やしていったときに、例えば町全体の支出として減らせるものって何かないのだろうかと思って、これを活用して。だから、これ一例だけれども、例えば広報、正直聞くとお悔やみ欄だけ見て、あと全部捨てているよという人もいるし、一回も見たことないよという人もいるしという中で例えばだけれども、一例として、広報配信しているのだったら、ましてやラインで手軽に見れるのだったら、もう要らないよとかという方にはもう入れないとか、それと印刷部数自体も減らせるし、町内会の方の手間も減ると思うのだよね。だから、例えばそういうこれを活用して何か別な部分をリストラというか、スリム化していくというのも一つ重要なことかなと思うのですけれども、もし有償版を入れるのであれば、その分をどこか経費減らせるぐらいの効果があれば有償版も大事だなと思ったものですから、いかがですか。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

我々もいろんな自治体など見ながら有償版のメリット、デメリット、当然考えておまして、やはり究極といいますか、町民が役場に来なくてもライン上で手続きが完結できるようなスタイルって望ましいよねというのは今課で話しているまず1点と、あと経費を含めて例として広報挙げられましたけれども、広報も今まさに我々も話ししている中で、これも究極はもう紙廃止の、ラインで通知して今月号を発信しましたというのが将来像だよねというようなことは既に話しております。ただ、どうしても紙媒体ではなければという声も当然ありますので、そこは経費の圧縮に努めながら、その分で出た捻出できたお金で有償版を導入できれば、なお美しい姿かなとは思いますが。そういったことも踏まえながら、今現在議論を課内でもしながら方向性について検討している最中です。

以上です。

○委員（千葉圭一君） 今の質問に関してですけれども、2ページ目のライン友達推移の

一番下の年代別で40代が28%、50代が21%、30代が19%、結構この30代から50代の間って占めていますよね。でも、60代から70代っていったらもう人口がすごく多いはずなのにこれしかないということは、この人方は広報を見ているのです。ラインでなくて、これを広報で。いや、例えばですよ、というふうな数字がせっかく出ているのだから、もうちょっとこの数字の有効的な使い方を考えていただいて、3、4、50代の人方が欲しがっている情報を例えば先ほど言った特化というやつなのですけれども、そういうふうに絞り込んでやってみたら意外ともっと上がるかもしれないなど。それと、広報とラインの広報をうまく分けるのだったら、こういう年代別にしてみるだとか、そういうふうにしていく今後の検討材料にも必要なのではないかなと思うのですけれども、いかがですか。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

30代、40代、50代の登録されている方が多いということで、当然その辺をターゲットとしました保健事業日程ですとか、そういったものはもう毎月必ず配信するようにしています。60代、70代、非常に少ない状況ではありますが、そこも課内では議論するのですけれども、ちょっと言いにくいですが、お年を召した方もやっぱりこういう時代に合わせてもらうといえますか、時代の流れと一緒に乗っていったほしいよねというのが話としてはあります。当然それも無理な話でありますので、俺ラインできないわ、スマホ持っていないわという方には当然配慮しながら、先ほど申しましたように究極系としては紙媒体の廃止というのをいずれなるとは思うのですけれども、早急にではないと思いますが、そういったことも加味しながら、私50代ですけれども、10年後、20年後、60代、70代になったときにはそういう時代が来るのかなというような考えは抱いております。

以上です。

○委員長（斉藤優香君） ほかにございませんか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（斉藤優香君） 質疑がないようなので、森町公式LINEの運営状況についてを終わります。

説明員の方は他席されて結構……訂正どうぞ。

○企画振興課長（岩井一桐君） すみません、訂正ございます。先ほどラインに関するアンケートをライン上で行ったとお伝えしましたが、すみません、誤りでして、ライン上では広報紙に関するアンケートのみを行っております。ただ、ラインに関しても当然今皆様方からご意見があったようなことを参考にさせていただきながら、ラインアンケートについても今後実施する方向で検討してまいります。

以上です。ありがとうございました。

○委員長（斉藤優香君） ありがとうございます。皆さん登録されたみたいで、今日欠席の方も勧めておきますので、今後もまたこういう情報を教えていただければと思います。ありがとうございました。

（何事か言う者あり）

○委員長（斉藤優香君） 退席されて結構です。ありがとうございました。

◎その他

○委員長（斉藤優香君） では、次に２、その他に入ります。皆さんから何かありますか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（斉藤優香君） 議会カフェのお知らせをします。

８月16日、三業まつりがあります。議会カフェ開催いたしますので、皆さんご都合つかれる方はぜひ９時からいつものところで、いつものように開催しますので、どうぞご協力よろしくお願いします。

◎閉会の宣告

○委員長（斉藤優香君） 事務局からは何かないようなので、なければ以上で本日の会議日程は全て終了いたしました。

会議を閉じます。広報広聴常任委員会は、これで閉会といたします。皆様お疲れさまでした。ありがとうございます。

閉会 午前１１時０２分